

# 教育研究業績書

2025年05月07日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：榎本 真由美

研究分野	研究内容のキーワード
在宅看護	訪問看護, 教育支援, 後期高齢者, 退院支援
学位	最終学歴
修士（看護学）	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 3学会合同呼吸療法認定士	2005年1月1日～2024年12月まで	
2. 看護師免許	1997年4月9日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 訪問看護事業所の管理職者による新任訪問看護師の教育支援に関する研究—新任者との同行訪問を通して管理職者が抱く思いと意識—	単	2025年3月	武庫川女子大学大学院看護学研究科	訪問看護事業所の管理職者が、新任訪問看護師との同行訪問を通してどのような思いを抱き、そして教育支援への意識として取り組むことは何かを明らかにすることを目的に、訪問看護事業所の管理職者に面接調査を行った。結果、管理職者が抱く思いは、「事業所を理解してほしい」「療養者主体として関わってほしい」などの6カテゴリーを抽出した。教育支援への意識は、「事業所の理念に則って看護活動ができるようにする」「訪問看護における接遇の大切さを徹底して教える」などの11カテゴリーを抽出した。管理職者は同行訪問を通して、新任者が事業所の理念と訪問看護の役割を理解し、多職種との連携を通じて療養者主体の看護を見出し、成長してほしいという思いを抱いていた。教育支援への意識は、新任者が訪問看護に必要な接遇や技術等を多様な経験を通じて学び、主体性を育むための支援を行っていた。また、管理職者は、新任者が不安なく業務に取り組めるように働きやすい事業所作りを心がけていた。これらは、新任者が訪問看護の基礎を習得し、自立するための教育支援に必要な取り組みであると考えている。
3 学術論文				
1. 1. 回復リハビリテーション病棟における後期高齢者夫婦世帯の在宅復帰支援について—看護師が抱く困難感—	共	2025年3月20日	日本リハビリテーション看護学会誌、第14巻第1号、64-71	回復リハビリテーション病棟の後期高齢者夫婦世帯の在宅復帰支援において困難と感じていることを明らかにすることを目的に、病棟看護師に面接調査を行った。結果、困難と感じている要因について①後期高齢者の介護の理解についての困難感、②「在宅介護の受け入れの難しさ」など2カテゴリー、③確立されたライフスタイルと家族の関係性に関連した困難感「人生の経験の中で培った自負への配慮難しさ」など2カテゴリー、④社会資源の活用に関連した困難感「看護師とセラピストの視点の違いによる協働の難しさ」など2カ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				テゴリーであった。後期高齢者夫婦世帯への在宅復帰支援では、高齢者ならではの能力の衰えに配慮しつつ、チームとして患者本人の人生経験や家族関係を大切にしたり関わりの必要であることが示唆された。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2025年5月～現在		日本在宅ケア学会		
2. 2023年5月～現在		NPO法人日本リハビリテーション看護学会		